

■インド：WH-東芝、GE-日立、インド原子力企業と協力へ

昨年締結された米印原子力協力協定結を受け、東芝傘下のウェスティングハウスは1月16日、インドの重電・建設大手のラーセン・トゥプロ社（L&T）と、原子力事業協定に関する覚書を交わし、加圧水型軽水炉（PWR）「AP1000」の建設を行う計画である。また、GE日立ニュークリア・エナジー社は、インドにおいて改良型沸騰水型軽水炉（ABWR）6～8基（合計約9,000MW）の建設を目指し、L&Tを初めとする複数のインド企業と交渉中である。これと平行して現在、WH-東芝、GE-日立の両陣営は、インド政府に対して、「原子力損害に対する補足的な補償に関する条約」（原発事故の際の責任を、発電所の運営企業に負わせ、発電システムメーカーには補償責任を問わないとする国際条約）に署名するよう求めている。